

第4課 まことの信仰を回復しなさい(Ⅰコリ12:31)

あなたがたは、よりすぐれた賜物を熱心に求めなさい。また私は、さらにまさる道を示してあげましょう。(Ⅰコリ12:31)

5月学院福音化の最後の4課です。コリント人への手紙第一12章から最後の章までの内容ですが、聖書は皆さんがそれぞれ時間をかけて精読してください。今日はその中で「賜物」に関する部分を見えます。

救われた神様の子どもたちが究極に到達する最終の目標地点は、永遠のいのちでも、天国でもなく「愛」です。マタイの福音書22章に、ある律法の教師とイエス様との対話で、イエス様は「心を尽くし、思いを尽くし、知力を尽くして神を愛し、隣人をあなた自身のように愛せよ」と言われます。順番として、神様を愛することが最初であり、次に隣人を愛さなければならないというのではなく、神を愛すること、隣人を愛することは両方とも同じく大きくて最初になる戒めだというみことばです。つまり、二つは同じものだということです。続いておっしゃったのは、聖書全体がこれ(神を愛す、隣人を愛す)にかかっているとされます。



マタイ22:37-40

37 そこで、イエスは彼に言われた。『心を尽くし、思いを尽くし、知力を尽くして、あなたの神である主を愛せよ。』

38 これがたいせつな第一の戒めです。

39 『あなたの隣人をあなた自身のように愛せよ。』という第二の戒めも、それと同じようにたいせつです。

40 律法全体と預言者とが、この二つの戒めにかかっているのです。」

「愛」が「すべてだ」ということです。ヨハネの手紙第一では、神は「愛」であり、私たちが先に神を愛したのではなく、神がひとり子イエスを供え物とし、私たちを生かすことによって神の愛が私たちに示されたと言っています。

I ヨハネ4:7-10

7 愛する者たち。私^{わたし}たちは、互いに愛^{あい}し合^あいましょう。愛^{あい}は神^{かみ}から出^でているのです。愛^{あい}のある者^{もの}はみな神^{かみ}から生^うまれ、神^{かみ}を知^しっています。

8 愛^{あい}のない者^{もの}に、神^{かみ}はわかりません。なぜなら神^{かみ}は愛^{あい}だからです。

9 神^{かみ}はそのひとり子^ごを世^よに遣^{つか}わし、その方^{かた}によって私^{わたし}たちに、いのちをえ^えさせてくださいました。ここに、神^{かみ}の愛^{あい}が私^{わたし}たちに示^{しめ}されたのです。

10 私^{わたし}たちが神^{かみ}を愛^{あい}したのではなく、神^{かみ}が私^{わたし}たちを愛^{あい}し、私^{わたし}たちの罪^{つみ}のために、なだめ^{なだめ}の供^{そな}え物^{もの}としての御子^{みこ}を遣^{つか}わされました。ここに愛^{あい}があるのです。



コリント教会^{きょうかい}の中^{なか}にあった問題^{もんだい}は、結局^{けっきょく}「愛^{あい}の不在^{ふざい}」すなわち神^{かみ}様^{さま}を信^{しん}じない問題^{もんだい}だったのです。終^おわり^{わり}の日^ひには困^{こん}難^{なん}な時^じ代^{だい}がや^くって来^かることを書^かいた、テモテへ^{てがみだい}の手紙^{てがみ}第^{だい}二^にの3章^{しょう}をこのように解^{かい}釈^{しゃく}することができ^{でき}るでしょう。

- 創^{そう}3章^{しょう} 自^じ分^{ぶん}中^{ちゅう}心^{しん} (自^{あい}分^{ぶん}を愛^{あい}し)

- 創^{そう}6章^{しょう} 物^{ぶつ}質^{しつ}中^{ちゅう}心^{しん} (お金^{かね}を愛^{あい}し)

- 創^{そう}11章^{しょう} 成^{せい}功^{こう}中^{ちゅう}心^{しん} (大^{おお}げさ^{げさ}に^にい^いば^ばっ^って、おご^{たか}り高^{たか}ぶ^ぶる)

- 神^{かみ}を愛^{あい}するX(快^{かい}楽^{らく}を愛^{あい}するこ^ことを神^{かみ}様^{さま}を愛^{あい}するこ^ことより優^{ゆう}先^{せん})

- 隣^{となり}人^{ひと}を愛^{あい}するX(情^{なさ}け知^しら^らず^ずの者^{もの}、和^わ解^{かい}し^しない者^{もの}、そし^もる者^{もの}、節^{せつ}制^{せい}の^のない者^{もの}、粗^そ暴^{ぼう}な者^{もの}、善^{ぜん}を好^{この}ま^まない者^{もの})

だれ^めの目^めにも明^{あき}らかなほ^{とくべつ}どの特^{たまもの}別^もな賜^み物^{ぶつ}を持^もっ^{ひとびと}て^{ひとびと}いた人^{むし}々^しが、そ^{ひとびと}う^{むし}で^{むし}ない人^{むし}々^しを無^む視^しし、また、そ^{たまもの}う^もような賜^み物^{ぶつ}を持^もっ^{ひとびと}て^{ひとびと}い^しな^しか^しつ^した^し人^し々^しは、そ^もれ^もを持^もっ^{ひとびと}て^した^し人^し々^しを嫉^し妬^とし^しま^しす。パウロ^{ふんそう}は紛^{ぶん}争^{そう}と分^{ぶん}裂^{れつ}の原^{げん}因^{いん}の^{ひと}一^{ひと}つで^{たまもの}あ^なった賜^み物^{ぶつ}につ^{なが}いて長^{なが}く説^{せつ}明^{めい}を^{しょう}し^{たまもの}ま^たす(12-14章)。賜^み物^{ぶつ}とは、同^{どう}一^{いつ}の聖^{せい}霊^{れい}の中^{なか}で神^{かみ}様^{さま}のみこ^{した}ころに^{したが}従^{したが}って、キ^かリ^くス^きト^との^から^きだ^{かん}の^た各^{かく}器^き官^{かん}と^たして立^たて^たて^たき^たさ^たったので^たあり(12:11、18、27)、み^{たまもの}ん^ねな^{しん}が「よ^もり^もす^もぐ^もれた^もた^も賜^み物^{ぶつ}を熱^ね心^{しん}に求^{もと}め^もな^もさい」
と12章^{しょう}を^{むす}結^しび、13章^{しょう}全^し体^{ぜん}で「愛^{あい}」につ^きいて記^き録^{ろく}を^{ふた}し、そ^{しょう}して再^{ふた}び14章^{しょう}で賜^み物^{ぶつ}につ^{せつ}いて説^{せつ}明^{めい}し^{めい}て^{めい}い^{めい}ま^{めい}す。

で^{わたし}す^たか^たら、私^{わたし}たちはお互^{たが}いの賜^{たまもの}物^{ぶつ}に嫉^し妬^としたり自^じ慢^{まん}し^じない^じで、と^{たまもの}も^もに、よ^もり^もす^もぐ^もれた^もた^も賜^み物^{ぶつ}を^{もと}求^{もと}め^{もと}な^{もと}け^{もと}ば^{もと}な^{もと}り^{もと}ま^{もと}せん。

コリント人への手紙13章は、愛の絶対性（1-3節）と本質（4-7節）、そして永遠性（8-13節）について記録しています。その中で特に愛の本質を記録している4-7節は、私たちに熱心にそのような愛しなさいではなく、神の愛の本質として来られたイエス・キリストがそのような愛で神を愛し、強盗に会って死ぬようになった私たちを隣人として愛して下さったことを言っているのです。4節の愛ということばにイエス様の御名を入れて、7節まで読んでみましょう。

- 4 愛(イエス)は寛容であり、愛(イエス)は親切です。また人をねたみません。愛(イエス)は自慢せず、高慢になりません。
- 5 礼儀に反することをせず、自分の利益を求めず、怒らず、人のした悪を思わず、
- 6 不正を喜ばずに真理を喜びます。
- 7 すべてをがまんし、すべてを信じ、すべてを期待し、すべてを耐え忍びます。



まことの信仰の回復は、神の愛の内容であるイエス・キリストと十字架を知ることです。（「知る」ヘブル/ギノスコ - 連合して、同居して知ること）。心を尽くし、思いを尽くし、知力を尽くして神を愛された方はイエス様であり、隣人を自分の体のように愛された方もイエス様です。神様は、イエスを主とキリストとして受け入れ、一体となって連合している私たちを神を愛する者と見なして下さり、また他の隣人たちに神の愛を伝える者として立てて下さったのです。